

PLEIADES

No.125

2000年1月



2000年総会

札幌天文同好会 Sapporo Astronomy Club

目次

2000年を迎えて(後藤栄雄).....	2
ミレニアムの終焉(柴田健一).....	2
総会(例会)参加者の一言.....	2
2000年総会(柴田健一/千葉香夜子).....	3-7
定山溪冬の陣開催.....	3
福島基金への提案(千葉香夜子).....	4
イエス・キリスト2000歳の誕生日(後藤栄雄).....	8
ミール展示館オープン(後藤栄雄).....	8
事務局連絡.....	9
PLEIADES投稿について(柴田健一).....	9
(続)笠井トレーディングの対角魚眼レンズ(柴田健一).....	10
編集後記(柴田健一).....	10

2000年を迎えて

会長 後藤榮雄



新年おめでとうございます。今年は20世紀最後の年です。西暦元年はイエス・キリストが生まれた年といわれていますが、実際にキリストが生まれたのは紀元前4～6年頃、月も12月ではなくもっと暖かいときだったようです。したがって、今年はキリストが生まれた年から数えて2004年～2006年となり、西暦元年が正しく設定されていれば、もう21世紀に入っていることとなります。

天文学は最古の学問で、暦を造るために天体の運行を記録することから始まりました。BC125年にはヒッパルコスによって歳差現象が発見されています。ガリレイが望遠鏡で天体観測を始めたのが1609年、この世紀の後半にはパリ、グリニジ、ベルリンに天文台が出来ました。20世紀に入ってからウィルソン天文台、パロマ天文台が出来、第二次世界大戦が終わってからは電波による観測の外、レーダーやロケットによる観測も加わり、1957年には人工衛星が登場して世の中が一変しました。以後天文学の発達が目覚しく、ハッブル宇宙望遠鏡が撮った写真は一般の人達をも魅了しました。昨年は日本がハワイに建設していた「すばる望遠鏡」が完成し、これからの活躍が期待されています。天文学者が天文台のドームの中で星を追い望遠鏡を覗いている姿は過去のもの、今はコンピュータやハイテク機器を駆使して天体を追い、電波からガンマ線まで全ての波長の電磁波を使って、星の誕生の秘密、太陽系以外の惑星系の発見、宇宙誕生等の謎解きに挑んでいます。

私達も、アマチュアとしての観測の外に新しい知識を吸収し、世の中に遅れをとらないようにしたいものです。今年も観測し、議論し、会の活動

が活発化するよう願っています。

ミレニアムの終焉

事務局長 柴田健一

「ミレニアム」の正しい意味からすると、西暦2000年は千年紀最後の年であるそうです。しかし、区切りもよく「聖年」と重なったため、「大聖年」とし、盛大に祝うことになったとのことです。おめでたいこと誠に結構で、当会も44年目を迎え、半世紀の50年に向けてかくもありがたいものです。

一方で、会の歴史と共に会員の歴史も積み重なり、高齢化の一途を辿っています。何とかしよう、もがいているのですが、期待したほどの成果は現れていません。3年目の今年も新入会員を獲得して、会の活性化を図ることを目標に据えて牽引していきたいと考えておりますので、会員の皆様のご協力をお願い致します。

ところで、同一人物が事務局長を3年間も続けるとマンネリに陥り活動に柔軟性を失います。現在の危機的状況下においては尚更で、猶予もありません。2001年は新しい体制で会の運営にあたることを、会員の一人ひとりが真剣に考えていただきたいと思います。

ともあれ、最後の一年間、皆さんの協力の下、頑張りますのでよろしくお願いを致します。

総会(例会)参加者の一言

2000年1月8日(土)札幌市中央区民センター

後藤榮雄：今年も無事故で仲良く、楽しく観測し、議論し、会の活動を盛り上げましょう。

上西常雄：

生田 盛：このところデジカメに凝っています。2台目のデジカメを入手。カラープリンターも新年早々購入してしまいました。

中山 正：今年はずを中心、観測していきたいと思っております。

石塚宣充：今年、水星をぜひ見たいと思います。

鈴木芳江：今年、ペルセの流星群が、沢山でてほしいと思います。

進藤絃子：今年も、楽しい星見が沢山あってくれれば、と思っています。

千葉香夜子：今年も楽しく、のんびり星が見られると良いですね。元気で体が動くうちに沢山好きなことをしましょう。

柴田健一：今年やって来るリニア彗星。また写真撮影で忙しくなりそうです。

総会参加者9名は、編集子の知っている限り最少人数です。

どなく拍手をもって承認されました。続いて、新役員が推薦によって選出されました。

会長：後藤榮雄

事務局長：柴田健一

例会司会担当：生田 盛

普及担当：西野 浩

観測担当：吉田秀敏（保留）

行事担当：廃止

会報発行担当：事務局長兼任

会計監査：中山 正

- 説明 -

西野さんは欠席されましたが、事務局から依頼して受諾していただきました。吉田さんは、欠席されたため保留。行事担当幹事は、千葉さんが推薦されましたが、幹事として引き受けるだけの行事参加者がいないとして、辞退されました。会報編集担当は牛渡さんが、辞退を宣言されているため、事務局長が兼任することになりました。

2000年度総会

事務局長 柴田健一

1月8日、議長に生田さんを選出して開けられました。会長あいさつに続いて、1999年の活動報告が柴田事務局長、千葉行事担当幹事からありました。会計監査結果が中山会計監査から報告されました。報告内容については、質問な



晩酌付き夕食で和やかに歓談する参加者。後方、左から3番目が戸田さん（東京）5番目が殿村さん（石巻）

「定山溪冬の陣」開催

去る、2月22-23日に北海道地区流星観測者が主催する第5回の集会在定山溪温泉の溪水荘で開催されました。これまで最も少ない16人の参加でしたが、岩手県石巻・東京都などからの参加がありました。温泉と晩酌のみならず、しし座流星群の熱心な議論が行われました。どなたか2月号にレポートをお願いします。

事務局関連活動報告

1月総会（例会報告別冊）

転勤の大畑さんに代わって西野さんが推薦された。その他、会長・幹事は昨年と同様。

遠隔地の会員の減免提案否決される。

会報に広告を取ることが決定した。

札幌天文同好会のバッジあります。1個1000円。

編集局の負担を軽減するため、印刷局を設置して作業を分担（2月号から実施）。

2月例会

プレアデス販売。1年間先払い 価格6,000円 PRは行わない。

購読者：池田裕（3月26日1,000円受領）。

印刷局用機材（MO・IFボード）など購入。

遠隔地の会員制度再審議を提案。

3月例会

会報の広告について「さくぼうげつ」をお願いしたところ、「イベントなどの支援は惜しまない」との回答を得る。

新会員の育成を、例会に合わせて18時から45分間行う。

遠隔地ほかの会員取り扱いについて、次回再審議することに決定。

福島基金用途を議論するも決まらず。

4月例会

「天界」を東亜天文学会から寄贈を受け、会員に無料配布する。(その後、入会者がいなかったのは、残念)

新会員育成スケジュール決まる。

4～10月の担当：柴田・西野・牛渡・進藤・生田・吉田

総会提案事項の再審議。

例会に出席することが著しく困難な地区に生活の基盤を移した場合(中略)、および(中略)会長が認めた場合、会費を減免することに決定。年会費は5千円。

新入会員用「入会セット」を作成。

「星のロマンを求めて」の講座が終了(講師：後藤会長)。

4月26日：北海道新聞の「掲示板」に会員募集を掲載。

5月例会

初心者コース：柴田(ビデオで鑑賞する月)。

中村鏡の取り扱いについて議論。

6月6日のミール見学会について周知。

6月例会

初心者コース：西野(望遠鏡の取り扱い)。

スターウイークの概要周知。

福島基金の用途再審議するも、まとまらず。越後恵子さん入会。

中村鏡の苫小牧科学センターの展示(寄贈)決まる。

7月例会

スターウイーク(ムーンライトウォッチング)詳細決定。中島公園・大通り公園にて、各3日間。

ニフティーで作成した幟旗購入について、事後承認をいただいた。(＠1500円×5枚、旗竿は別途)。

中村鏡、最後のお披露目。

6月6日：ミール見学会。

8月例会

スターウイーク中間報告。

会員名簿作成。

会報交換の呼びかけ。

「北海道年鑑」(北海道新聞)へ資料送付。

9月例会

初心者コース：進藤(パッチワーク)。

スターウイークまとめ。

会報交換再掲。

10月例会

初心者コース：生田(双眼鏡)。

11月例会

事務局多忙のため、例会報告は別冊で発行。

12月例会

特になし。

その他

会費納入率 ほぼ100%。

例会終了後の観測会は、天候不順のため全く開催できなかった。

「全国天文同好会名簿2000」(月刊天文)へ登録。

1999年度札幌天文同好会の活動報告

行事担当幹事 千葉香夜子



1. 活動実績

1月23日 - 24日 定山溪冬の陣

伊藤、上西、生田、柴田、吉田文、吉田秀、西野、牛渡、進藤、鈴木、千葉
 2月23日 限界線星食(静内)柴田
 6月6日 苫小牧ミール見学 伊藤、生田、北村、中山、進藤、鈴木、柴田
 7月10日 - 20日 オーストラリア星見旅行 後藤、伊藤、生田夫妻、進藤夫妻、牛渡、千葉
 8月ヨーロッパ日食 ハンガリー 大場、トルコ 西野
 8月8日 - 14日 ペルセウス流星群観測(望来)後藤、生田、吉田秀、牛渡、進藤、鈴木、千葉
 9月18日 - 19日 星見人(初山別)後藤、生田、北村、牛渡、進藤、越後、千葉
 11月13日 - 21日 しし座流星群アリゾナ遠征 伊藤、牛渡、進藤、千葉
 11月16日 ~ 11月19日 しし座流星群観測(十勝群音更町)柴田
 12月6日 北海道天文研究集会 生田、柴田、吉田秀、牛渡、千葉
 12月25日 忘年会(定山溪 ホテル鹿の湯)後藤、伊藤、上西、柴田、進藤、鈴木、越後、千葉
 大通り公園でのムーンライトウッチング、スターライトウイーク、また、個人での流星観測、小惑星の掩蔽などで地方に遠征された方もいますし、晴れていると望来、または古たんでの観測など会員みんなが活躍されています。

2. 2000年のおもな天文現象

2月24日(木)限界線星食(厚真町)
 25時5分 6.6等星
 3月8日 - 10日 月、火星、木星、土星が並び写真に写し頃
 4月8日(土)限界線星食(和寒町)
 19時45分 5.6等星
 5月5日(金)みずがめ座流星群極大(月齢12.7)
 7月16日(日)皆既月食(20時58分 - 22時56分)
 この頃より1週間リニア彗星(C/1999S4)が夕方の北西の空で見頃

8月12日(土)ペルセウス流星群極大(月齢12.4)
 9月12日(火) 中秋の名月
 9月23日(土) 限界線星食
 26時50分 6.6等星
 26時51分 7.2等星
 26時53分 7.5等星
 27時 2分 7.4等星
 27時 3分 6.3等星 (千歳市)
 10月17日(金)オリオン座流星群極大(月齢23.7)
 11月17日(金)しし座流星群極大(月齢21.2)
 今年は流星群の極大前後に月があり条件があまり良くありません。
 小惑星の掩蔽の初期予報で北海道を通過しているのもあります。

イエス・キリスト2000歳の誕生日

後藤榮雄

イエス・キリストの聖母マリアは晩年をエーゲ海に近いセルチュク(エフェソス)で暮らした。マリアの住居はエフェソスの都市遺跡から5kmほど離れた丘の中腹に建っていたが、当時の住居は今はなく、その跡にマリアの家という石造りの小さな教会が建っていてキリスト教の聖地になっている。私は昨年トルコ一周旅行のとき、この地を訪れたが、土曜日だったせいか大勢の観光客や信者で賑わっていた。

このマリアの家の少し手前に、赤地に白い文字で書いたトルコ語と英語の看板が立っており、英語の方を読むと「2000年の8月15日にセルチュクのマリアの家に集まり、キリスト2000歳の誕生日を祝おう。セルチュク市」というようなことが書いてあった。なお、西暦元年にキリストが生まれたとすると、2000年でキリストの年齢が2000歳というのは数え年である。

問題は、集まる日を8月15日に設定した意味である。日本ならお盆であるが、キリスト教で何か特別な日であるのかどうか、誰に尋ねても分からない。キリストが生まれたのは12月ではなく、もっと暖かい季節だという説もあり、ひょっとするとキリストの誕生日は8月15日だとする一派があ

るのかもしれない。今年の 8 月 15 日にセルチュクのマリアの家に行ったら、新しい発見があるかもしれない。

エフェソス EPHEOS は小アジア最大規模の遺跡で、古代世界の七不議と

いわれたアルテミス神殿を中心に発展したイオニア人の都市で、25,000 人収

容の野外劇場や図書館、ソクラテスの住居跡、浴場、公衆トイレ、アントニ

オがクレオパトラと歩いたという大理石の道路等が残っている。なお、アル

テミス神殿跡は沼地に大理石の柱が一本あるだけで、その上にコウノトリが巣を作っていた。

ミール展示館オープン

後藤榮雄

1986 年に本体が打ち上げられたソ連（ロシア）の宇宙ステーション・ミールは、設計寿命をとくに過ぎたのと経済的に維持することが困難になったため、現在無人のまま飛行しており、今年の 2 月から 3 月には大気圏に突入して燃え尽きる運命にあります。

ミールを製作するとき、全く同じ物が 2 機製作されました。その内の 1 機が現在宇宙にあるミールで、打ち上げられなかったもう 1 機のミール（本体と実験モジュール・クバント）は、以前に札幌で開催された「食の博覧会」等各地で展示された後、1998 年に岩倉建設株が買いとり、市制 50 周年を記念して苫小牧市に寄贈されました。

折角寄贈されたミールも当初は収容する建物がなく、苫小牧市科学センターの屋外にシートをかけて置かれていたのですが、通産局の補助金を含めて 1 億 1 千万円余の経費をかけて建設した「ミール展示館」が完成し、昨年 12 月 11 日にオープニングセレモニーが行われました。セレモニーには苫小牧市科学センターに札天が所有していた中村鏡使用の反射望遠鏡を寄贈したこともあって、札幌天文同好会会長として私も招待され、テープカットをして来ました。式は主催者である苫小牧市長の挨拶、来賓代表として北海道通商産業局長の挨拶（代読）、苫小牧科学センター館長の経緯説明と続いた後に、苫小牧市長、市議会議長、市議会文教経済委員長、市教育委員長、道通産局長、

岩倉建設株社長、苫小牧建設協会会長、日本宇宙少年団苫小牧分団員代表それに私でテープカットを行い、ミール展示館が集まった市民に公開されました。



右端が後藤会長

在来の建物に接続して建てられた展示館の中には、ミール本体と実験モジュール・クバントがドッキングした状態で展示され、中に入って設備を見られる外、2 階のデッキからミールの上部を見られるようになっています。また 1 月 30 日までは特別展「宇宙ステーション・ミールからの発信」が行われており、ミール展示館の中には、日本における宇宙開発の歩みや国際宇宙ステーション、スペースシャトルの模型や説明資料の外、札天が寄贈した中村鏡を使った反射望遠鏡（故米田勝彦氏の遺品）や隕石等が展示されています。

現在、宇宙にあるミールが大気圏に落下して消滅すると、苫小牧市科学センターにあるミールが世界唯一のミールとなり、宇宙開発の貴重な遺産となります。

なおこの日、札幌天文同好会から苫小牧市科学センターに中村鏡を寄贈したことに対する感謝状を戴いて来ました。



苫小牧科学センター館長から感謝状戴く後藤会長

先日は、苫小牧市科学センター・ミル館のオープニングセレモニーに、後藤会長とご出席いただきまして本当にありがとうございました。またお礼状も送付させていただきました。中村委員の望遠鏡は今後大切に保管し展示してみたいと思います。又、札幌函高にあるよか4211号中村委員の望遠鏡については調査してみたいと思います。

平成12年1月12日
苫小牧市科学センター
菅原 勇介

橋渡しを務めていただいた
菅原学芸員からの手紙（事務局が受領）

事務局連絡

会費受領

中山、生田、鈴木、進藤、千葉、後藤、柴田
全て 2000 年度分

寄付受領

後藤(2000 円)、進藤(2000 円)
二次会残金(1400 円)

会費納入のお願い

2 月末までに 2000 年度会費の納入をお願い致します。例会に参加されない方は、「郵便振替口座：02780-7-31295 名称：札幌天文同好会」へ振り込まれるようお願いいたします。また、会費の減免を希望される会員は後藤会長または事務局まで申し出てください。

「PLEIADES」の投稿について

事務局長 柴田健一

会員の皆さんに投稿していただくに当たり、お願いしたい事項は以下のとおりです。

- (1) 例会で話したことは、必ず投稿していただく（それ以外の観測・情報なども）。
- (2) 投稿の様式は、1 ページ 22 文字 44 行の 2 段組とする。
- (3) 0.5 ページの単位の完全原稿（そのまま印刷できる形式）としていただく。
- (4) 出来ない方は、テキストファイルでいただければ、事務局で編集いたします（従来の方法）。
- (5) 英数文字は「半角」としてください。
例：1-2-3 A-B-C 123ABC
- (6) ワードプロ・パソコンをお持ちでない会員は、手書き原稿でも結構です。
- (7) 原稿にはできるだけ、写真・図などを添付し、ビジュアルな編集にご協力下さい。
- (8) ファイル形式は、ワード・一太郎・テキストファイルなど、一般的な形式であれば何でもかまいません。
- (9) メディアは、Eメール(PXI04201@nifty.ne.jp)・フロッピー・Zip など何れも可です。
- (10) フロッピーは、1.2、1.4MB 何れも可です。
- (11) MO は 230 MB、640 MB 何れでも可です。
- (12) 会員一人ひとりの自発的な投稿がある前提での編集です。一年間をとおして、一人二編以上を目標に投稿していただきますようお願いを致します。

(続) 笠井トレーディングの対角魚眼レンズ

柴田 健一

昨年の 4-5 月号で話題になって、写り具合をレポートすることになっていましたが、本番の「しし座流星群」で試写をしました。印画紙からのカットなので端は切れていますが、右上のシリウスの像は乱れているものの、左にある北斗のミザール・中央上の双子座など、あまり明るくない星のイメージは悪くありません。(下の光は水銀灯のハレーション) 販売方法に疑問は残りますが、値段からすると良い製品でしょう。慎重な購入をお勧め致します。



F 2.8 開放 時間不明 フジカラー 1600 固定 ネガを反転

次回例会案内

2000 年 2 月 5 日 18 時から

札幌市中央区民センター

話題は当日始まる前に生田幹事へご連絡下さい。

編集後記

柴田 健一

今年一年間は、事務局が編集を兼任いたします。これまでとおりタイムリーな情報がほしいという会員の皆さんのニーズに答えるためです。会報としてのポリユームは減少するかもしれませんが、読みやすい紙面作りを心がけたいと思います。どうぞよろしくお願いを致します。

ところで、会報編集で一番楽な方法は、写真を多くすることです。編集者は「ペタペタ」と写真を貼って、二―三行の解説文を挟み込むだけなのです。最近、デジカメが普及したので、会員の皆さんはシャッターチャンスに思いつき取り取りまっくて下さい。良い写真があれば、簡単な解説を付けて Eメールで送って下さい。これで、タイムリーな活動記録が誌面を飾ります。印刷の解像度も向上したので、きつと楽しい会報になります。もちろん、印画紙写真でも構いません。事務局がスキャナーで読み込んで掲載します。

二月号は「定山溪冬の陣」のレポートをお待ちしております。写真を撮影していた方はおられなかったようですね。でも、私のデジカメ写真がありますから大丈夫。感想のみの簡単なもので結構です。宜しくお願いたします。

定番の「今月の会報レビュー」は、話題のある時だけと致しますのでご了承下さい。

PLEIADES No.125

発行日：2000 (平成 12) 年 1 月 28 日 発行：札幌天文同好会 Sapporo Astronomy Club

郵便振替口座：02780-7-31295 名称：札幌天文同好会

事務局：〒 078-8331 旭川市南 1 条通り 20 丁目 1955-3 北電 AP 1-401 柴田健一 方

TEL.0166-35-7891 e-mail: pxi04201@nifty.ne.jp

札天ホームページ：http://www3.famille.ne.jp/~s-ussy/satten.htm

印刷製本：プリントショップ・メローペ (生田 盛) 発行部数：60